



T O K Y O R O P P O N G I R O T A R Y C L U B

東京六本木ロータリークラブ



『エンジョイローター』

～Enjoy Rotary～

東京六本木ロータリークラブ会長

W E E K L Y R E P O R T

『夢をかたちに』

～ Make Dreams Real～
国際ロータリークラブ会長

発行日 2009年6月8日

No. 40

平成21年5月18日

卓話『世界の金融 日本の金融』

東京六本木ロータリークラブ 会員

藤井 卓也 様

金融の仕組みや働きは、身体に譬えると心臓や血管等で形成される循環器系組織によく似ています。

世界の金融、経済は今、“100年に一度”と冠される危機の真っ只中にありますが、これは急激な運動の後に心臓がバクバクする一過性の苦しみ（景気過熱の後の不況）とは異なり、長年の生活習慣、不摂生（米国の過剰借入、過剰消費等）がたまって脳内出血を起こし全身の機能が急激に低下（金融不安が実体経済の不振をもたらし、それが更に金融の悪化を招く“負の連鎖”が発生）している状況です。当初の各国政府、中央銀行の対応は、“too little, too late”でしたが、昨年9月に米国投資銀行リーマンブラザーズが破綻し全世界を巻き込んだ金融不安に直面して以降は、主要国が連帯して“応急措置を総動員”したことが功を奏して、このところ小康状態を保っています。例えば株価や原油その他主要商品価格が2～3月を底に回復に転じ、生産活動も在庫調整の進捗から幾分持ち直しています。

しかし、これで“すんなりと”快方に向かうかといえ、私の見立ては違います。現在の危機は、単純な需給の不均衡から生じた一過性のものではなく、もっと深い所に根差しています。伝統的な銀行業の衰退と新しい金融ビジネス（ファンドや証券化等）の興隆、マーケット至上主義への傾斜（規制監督の緩和、撤廃）と金融グローバル化の進展、過剰借入や過剰消費という生活習慣病の進行、成果主義やインセンティブ経営の横行等々が挙げられます。

こうした要素を取り除き健全かつ柔軟な金融システム再構築に向けての話し合いが、主要国の監督当局の間で始まっています。規制対象の拡大、会計の見直し、監督プログラムの向上とりわけモニタリング態勢の強化、自己資本の充実、リスク管理の改善、更には金融機関経営の根本理念の見直しやグローバルな規制監督の連携強化も検討課題となっています。これらの改革を実現すること

は並大抵の努力では叶いませんし、時間も掛かります。そこで最も大事なことは、改革された金融システムのもとで、金融業が一般の人々や企業にとって真に役立つ存在となり、かつ安定的に適切な利潤を得ることが出来るかどうかです。その実現のためには、消費者や企業の意識や行動の見直し、効用の高い政府の組成、各国間の協調と連携が必要であり、“One for All, All for One”の精神が不可欠です。



それでは日本はどうしたらいいでしょうか。日本の金融機関の不良債権は、欧米に比べ桁少ない状況です。しかし、実体経済の状況は、輸出の急減によって主要国中一番深刻です。ですから、まずこれ以上実体経済が冷え込まないようにすることが、喫緊の課題です。迅速で大幅な財政出動が求められますが、これまでのところ“スピード感に問題あり”です。大型の補正案が衆議院を通過しましたが、本当にこれで大丈夫でしょうか。財政赤字が大幅であることを考慮すると、潜在成長率の引き上げにつながり財政収支の好転が見込める施策が望まれます。このように“甲斐より始めて”自国の経済の先行き不安を払拭するとともに、金融力の強化（主体間、空間、時間の架け橋となる信用仲介、市場機能の強化、育成）に不断に取り組むことが必須です。世界第二位の日本の金融経済が安定することは、世界の金融経済の安定にも大きく貢献します。長い眼で見て最も大事なことは、日本の生活習慣——伝統、文化と言ってもいいでしょうが——に培われた和の心（“もったいない”、“足るを知る”、“人様に迷惑をかけない”、“和を以って貴しとなす”等々）を世界に広めようというチャレンジ精神ではないでしょうか。